



三ツ星だより 2月号①

令和7年2月10日
三ツ星保育園 遠藤美也子

先週は大寒波の影響で、ここ川根本町にも雪が積もり、チラチラと風花が舞う中、外に飛び出して冷たい雪を触ったり、足で踏み込むと雪が溶けていく様子を見たりと子どもたちの心をワクワクさせてくれました。

土曜日に行われた作品展では雪化粧が残る中、多くのお家の皆様に足を運んでいただき、hugnoteアプリのコメント欄（健康チェック表やおたより帳）にたくさんの感想を寄せてくださりまして、ありがとうございました。

小さい年齢から順を追って見ていただいたことで、絵画や製作の発達過程だけでなく、作品から子どもたちの園生活の様子がよく伝わってきたという感想等を受けまして、今後も子どもたちと様々な経験を通して、感性豊かな表現を引き出せるよう充実した園生活を送っていきたいと思いました。

作品展後の今日、そら組が「人間すごろく始まりまーす！そら組に来てください！」と、小さい子に声をかけていました。集まってきたにし組にすごろくのルールを丁寧に説明したり、「あと、もう少しで橋を渡れるところに行けるよ」と励ましたりしながら、自分たちが作ったもので一緒に遊んでいましたよ。おやつ後にはにし組のお店屋さんも始まる予定で、異年齢の交流も図れる機会となりましたよ。これから少しずつ作品等を持ち帰ります。お迎えの際にはお荷物が多くなりますが、よろしくをお願いします。



新年度用の保育用品注文書を近々配布します。「保育用品の注文について」を見ていただき、必要な保育用品の購入をお願いします。おさがりがある場合は、利用していただいて構いません。

食育研修会より

食育研修会に参加した職員の報告の中で家庭でも参考になりそうなことがありましたので、紹介しますね。

- * 食べることが好きになるために、食べたい気持ちを高められるような工夫が大事。例えば、どんな食材が使われた料理なのかクイズ形式や子どもと一緒に鍋の蓋を開けてみることで、その瞬間の発見（湯気や匂い、具材の彩りなど）から食欲が沸いてくるのだそうです。
- * 苦手な食べ物がある子への対応は、その食べ物の何が嫌なのか、何に困っているのか、どうしたら食べられるようになるのか探ること。頑張るって食べることがいいことではなく、頑張らなくても食べられるようになるように、食べることができる経験を毎日少しずつ積み重ねている最中であると捉えていくといいそうです。
- * 食いしん坊の大人が周りになると、食いしん坊の子どもが増えるんだって！！
- * 食前の手洗いは、手のひらに多くの神経が通っているため、冷たい水で手のひらに刺激を与えることで、切り替えができるのだそうです。衛生面だけでなく、食事に気持ちを向かせる時にも有効なのだそうですよ。

